

科目名	フィジカルアセスメント			担当教員 (研究室番号)	白石葉子 (非常勤) 辻本雄大 (非常勤)	教員への連絡方法 (メールアドレス)	kyomutanto@ml.mcn.ac.jp					
履修年次	1年次 後期	科目 区分	共通科目 I		選択 区分	選択	単位数 (時間)	2 (30)	授業 形態	講義・演 習	科目等 履修生	可
科目 目的	複雑な健康問題をもった対象の身体状況について系統的に全身を診査し、臨床看護判断を行うために必要な知識と技術を学ぶ。											
ディ プロ マ・ホ リ ン (DP)	主要なDP	7. 看護学の特定分野における卓越した看護実践能力を修得している。										
	関連する DP	1. 多様化・複雑化・高度化する看護ニーズを的確に捉え、看護の特定領域における高度な看護実践能力や総合的な調整能力を身につけている。										
到達 目標	1. 身体の健康な状態からの逸脱の有無を判断するための全身のアセスメントの方法を、説明することができる。 2. 基本的なフィジカルイグザミネーション技術を、安楽性を保ちながら安全・正確に実施することができる。 3. フィジカルイグザミネーション技術を用いて収集した情報を基に、系統的に身体の状態を判断することができる。 4. フィジカルアセスメント演習を通して、臨床看護判断に活かす能力を習得し、看護の専門分野におけるフィジカルアセスメントの意義についても説明することができる。											
成績評価方法 (基準)	レポート (70点) と授業への参加度 (30点) を合わせて総合的に評価する。レポートと授業への参加度それぞれにおいて60%以上の点数であることを合格の条件とする。											
教科書	小野田千枝子監修、実践！フィジカル・アセスメント-看護者としての基礎技術-第3版、金原出版、2008											
参考書等	適宜紹介する。											
受講者への メッセージ	授業では、毎回技術演習を行います。限られた時間の中で技術を修得するためには、主体的に事前学習を行う姿勢が重要です。											
備考	授業は1コマあるいは2コマ続きで実施する。詳細は初回の授業計画で知らせる。 成績評価は、レポートに加え、授業中の発表およびディスカッションの状態から総合的に行うため、再試験は実施しない。											
回	学習項目				学習内容				主担当 教員	授業 方法		
1回	授業ガイダンス フィジカルアセスメント総論 フィジカルイグザミネーションで用いる 用具の理解				本科目の学習方法について理解する。 看護実践におけるフィジカルアセスメントの意義やフィジカルアセスメントの概要について学ぶ。 フィジカルイグザミネーションで用いる診察用具の種類・使用方法の基礎について学ぶ。				白石	講義		
2回	フィジカルイグザミネーション技術 一般状態・外皮系のアセスメント				フィジカルイグザミネーションの基本技術 (視診・触診・打診・聴診) を学ぶ。 一般状態・外皮系のアセスメントの目的・方法・留意点について学ぶ。				白石	講義 演習		
3回	頭頸部のアセスメント				頭頸部のアセスメントの目的・方法・留意点について学ぶ。				白石	講義 演習		
4回	眼・耳のアセスメント				眼・耳のアセスメントの目的・方法・留意点について学ぶ。				白石	講義 演習		
5回	心臓・血管系のアセスメント 第6回～7回オリエンテーション				心臓・血管系のアセスメントの目的・方法・留意点について学ぶ。 第6回～7回の学習目的・方法を理解する。				白石	講義 演習		
6回	生活行動を支援するための腹部のフィジカルアセスメント (フィジカルアセスメントの基礎)				TBLの学習プロセスにより、腹部のアセスメントの目的・方法・留意点・看護実践への活用方法についての知識を、主体的に学ぶ。				白石	演習		
7回	生活行動を支援するための腹部のフィジカルアセスメント (フィジカルアセスメントの技法)				TBLの学習プロセスにより、腹部のアセスメントの技術を、主体的に学ぶ。				白石	演習		
8回	生活行動を支援するための腹部のフィジカルアセスメント (臨床看護判断)				消化器系の機能障害がある患者のシミュレーションモデルを用いて、臨床看護判断を行う。				白石	演習		
9回	乳房・腋窩・生殖器のアセスメント				乳房・腋窩・生殖器のアセスメントの目的・方法・留意点について学ぶ。				白石	講義 演習		
10回	筋・骨格のアセスメント				筋・骨格のアセスメントの目的・方法・留意点について学ぶ。				白石	講義 演習		
11回	神経系のアセスメント 第12回～13回オリエンテーション				神経系のアセスメントの目的・方法・留意点について学ぶ。 第12回～13回の学習目的・方法を理解する。				白石	講義 演習		
12回	生命維持を支援するための呼吸器系のフィジカルアセスメント (フィジカルアセスメントの基礎)				PBLの学習プロセスにより、呼吸器系のアセスメントの目的・方法・留意点・看護実践への活用方法についての知識を、主体的に学ぶ。				白石	演習		
13回	生命維持を支援するための呼吸器系のフィジカルアセスメント (フィジカルアセスメントの技法)				PBLの学習プロセスにより、呼吸器系のアセスメントの技術を、主体的に学ぶ。				白石	演習		
14回	生命維持を支援するための呼吸器系のフィジカルアセスメント (臨床看護判断)				呼吸器系疾患患者のシミュレーションモデルを用いて、臨床看護判断を行う。				辻本	演習		
15回	看護実践としてのフィジカルアセスメント				状況設定を行ったシミュレーションモデルを用いて、臨床看護判断を行い、グループワークを通して、専門分野におけるフィジカルアセスメントの意義について考察する。				辻本	演習		